



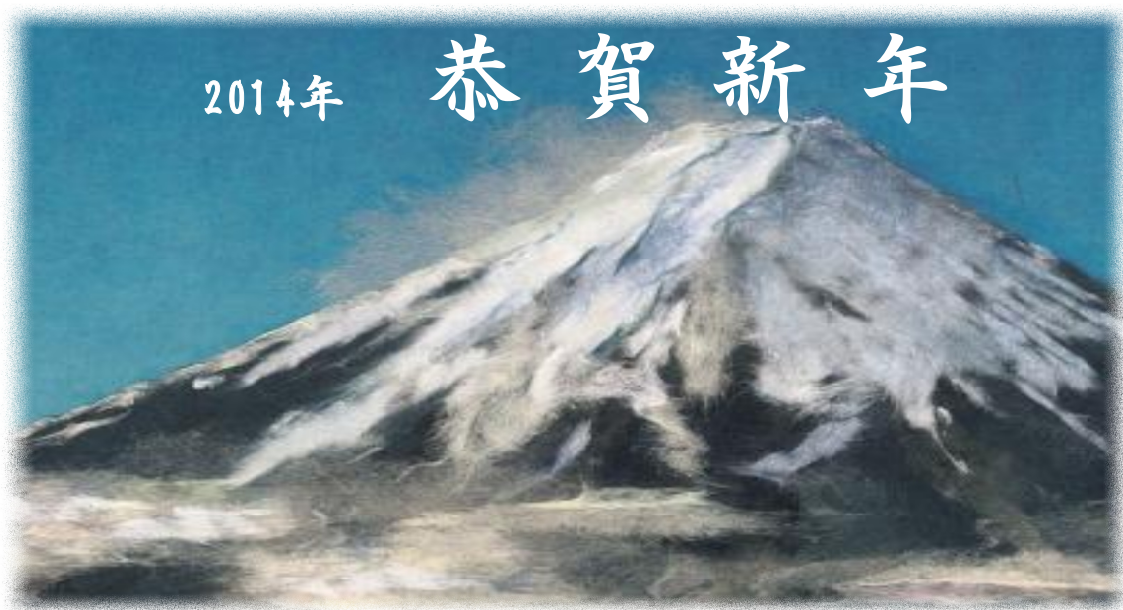
# JAC北九だより

No.67 (平成26年 第1号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行:公益社団法人 日本山岳会北九州支部  
支部長 伊藤 久次郎  
事務局:福岡市早良区昭代 3-9-5-502  
山田 武史方  
TEL・FAX 自宅 092-844-3563  
携帯 090-6422-5662  
編集人: 竹本 正幸  
印刷: 山口県山口市水の上町2-25  
内 藤 製 本 所



## ◇◇明けましておめでとうございます◇◇

支部長 伊藤久次郎

昨年は、今までにない良い1年であったと思います。簡単に振り返って見ますと、まず春に念願のルームを開設したことです。ルームは、誰でも自由に、好き勝手に、いつでも利用できる場所です。山の図書も現在400冊以上を備えています。

このルームのおかげかどうか分かりませんが、その後、新入会員が16人も増えたことです。そのうち通常会員は4人だけですが、あとは支部友会員です。この中には現役大学山岳部の若者や、20代の山ガールもいます。さらにルームの「会員募集中」の看板を見て入会された会員や本部ホームページを見て入られた会員などもいます。

そして、新会員が増えたもう一つの理由に、園川顧問による山岳技術専科があります。この1年で、山岳技術専科がさらに活発になったことです。最初のころより参加者が増えました。

特に今回通常会員となった現役大学生たちも、この専科に参加しました。やがて、新入会員たちが、支部の中核となりリーダーになっていくことを期待します。

日本山岳会森会長が昨年6月就任して、四つの課題を述べております。

第1は、支部の活性化。

第2は、若手会員の増強と次期リーダーの養成。

第3は日本山岳会創立110周年記念事業。

第4は、財政基盤の確立。高齢化による会員減少のための会員増強です。

北九州支部もこれらの課題を見据えて、支部活動にまい進したいと思いますので、会員の皆さまもどうか、積極的な活動と協力をお願いする次第です。

## 平成25年度

## 第2回支部長会議の報告

支部長 伊藤久次郎

- ・日時 平成25年12月7日(土) 10:30～12:30
- ・場所 品川プリンスホテルアネックスタワー5F  
(年次晩餐会会場)

## 〈次 第〉

## 1. 森会長あいさつ(要旨)

私は本年6月、会長に就任した。方針は会報「山」7月号に書いている。現在、日本山岳会が取り組んでいることは、会員増強とリーダー育成である。ユースクラブが徐々に成果を出している。

支部活性化について、支部の中身を充実させてほしい。何か企画をだしてもらい、いい企画には資金を補助する。遭難防止と安全登山を強化したい。110周年記念事業を尾上前会長が進めている。また海外登山を試みていただきたい。

## 2. 議 事

## ① 会務報告

- ・110周年記念事業(黒川副会長)
- ・山の日制定について(森会長)

山の日をつくる運動は、山岳5団体の枠を越えて新たな段階に入り、さる11月11日、全国「山の日」制定協議会が発足した。会長は谷垣禎一氏(JAC会員、日本山岳ガイド協会会長、前自民党総裁)。制定協議会への団体、個人加入について。山の日は、8月11日に決定。

平成26年1月の通常国会に提出予定。

- ・家族登山普及WGについて(吉川常務理事)  
全国支部の報告は、良く出来ていた。来年も予定している。
- ・三百名山編纂について(節田副会長)  
来年、三百名山記念ツアーを計画予定。

- ・日本山岳協会・東京都山岳連盟との新たな関係について(森会長)

- ・税額控除制度について(吉川常務理事)
- ・旅費等の自己負担額を日本山岳会へ寄付する場合の取り扱い(吉川常務理事)

- ・YOUTH CLUB活動について(古野副会長)  
40歳未満の人が多くなった。富山の国立山研修所での講習会。若い人には、交通費の補助を出す。

## ② 支部活性化についての意見交換

支部活動が活発な北海道、東京多摩、東海、関西、広島、四国の6支部が指名され、意見発表した。各支部とも会員獲得やリーダー育成に向けての講習会が活発であった。

## ③ 平成26年度全国支部懇談会について

現在の支部懇は、規模が大きすぎるのでコンパクトにするよう検討する。(宮崎)  
26年度の支部懇は10月18日、埼玉支部予定。

## ④ 今後の日程について(省略)

- ⑤ 会費未納者への納入督促について(吉川)  
現在未納者は14%。納入するよう声かけして欲しい。 以上

## タウンミーティングに参加

## 祝日「山の日」は8月11日に

13992 山田武史

超党派の国会議員による「山の日」制定の活動が展開されておりますが、第10回目となる総会が、平成25年10月11日(金)17時より大分県九重町長者原の「九重星生ホテル」で開催され、日本山岳会北九州支部を代表して参加した。

これまでの8回の総会は都内で開催されたとのことで、前回は初めて地方に出て、上高地で開催され、今回は会長である衛藤征士郎議員の地元の九重町での開催となった。

当日は約50人の参加者であったが、山岳関係者はJAC本部より成川リーダー、東九州支部より加藤支部長他2人、北九州支部からは小生程度で、ほかは地元の市および町の議員の方たちであった。

11月22日、超党派の「山の日」制定議員連盟(江藤征士郎会長)が、国民祝日としての「山の日」を8月11日とすることで決定しました。来年1月の通常国会に提出する方針です。

紆余曲折ありましたが、企業が夏休みに入るお盆の時期で、「家族で山に親しみ、国民全体が有効利用できる」として8月11日を選択したようです。

なおこれに先立って11月11日、全国「山の日」制定協議会の発起人会、設立総会が開かれました。

日本山岳会も中核的なメンバーとして、「山の日」の国民的な運動に参加していくことになりました。



12月14日(土)

## 「こんな楽しい忘年会は初めて」

14206 中岡邦男



吉塚サンヒルズホテルにて

12月14日(土)福岡市吉塚のサンヒルズホテルに37人が集い、盛大に忘年会が行われました。ブレ山行は立花山(367m)・三日月山(272m)で11人が参加されました。

福岡市内での支部忘年会は初めてで、これまでの下関・北九州での忘年会とは少し気分的に何かが違っていたように思えました。ビール・酒・焼酎のおいしさは変わらなかったのですが確かに何かが違っていました。これが私の正直な感想です。今回は遠方からの参加者が多かったので開始時間を早めて午後5時にしたことも微妙に影響していたのかもしれません。

今回の幹事は、博多っ子の榊さん・赤瀬さん、それに川筋男の中岡の三人組でしたが、飲酒を主とした打ち合わせを数回行い最終的な準備を榊さんと赤瀬さんに委ねることになりました。私は何をしたのかと問われると「会報の原稿、書いてください」と言われて「ハイ」と答えるしかありませんでした。会場内は六テーブルに分かれて榊さんの司会で始まり、伊藤支部長のあいさつのあと大城戸さんの乾杯の音頭で宴会の火蓋が切られました。

久しぶりに顔を合わせる人・初対面の人、それぞれがひざを突き合わせて酒をくみ交わし親睦を深めました。間もなく山田事務局長から新会員19人の名前が読み上げられた後、出席された12人の方がステージで紹介され、歓迎の拍手が沸き起こりました。宴もたけなわとなり次は、豪華賞品の当たる

福引が始まりました。賞品は幹事が考えに考え抜いて選んだモンベルの折り畳み傘など小物20点余り、それに会員の「吉すし」さんからの差し入れを特別賞に加えさせていただき超豪華となりました。涙をのんで賞品を辞退された奇々な方(幹事)のおかげで半数以上の方に賞品が行き渡りました。

適度に酒もまわり、いよいよカラオケの順番となり、若い歌声とそれに負けじと昔懐かしいシブイ歌声、男女のデュエットの歌声が次々と会場いっぱい

に響き渡りました。リクエストが多く司会の榊さんはそれぞれのテーブルを走り回っており、その様子もそばから見てみると酒のつまみになりました。(すみません)

それぞれのテーブルでは先輩方も新会員の方も酒を酌み交わしながら山談義などに花を咲かせて笑い声が絶えませんでした。私の耳には「こんな、楽しい忘年会ははじめて」と言ううれしい声も聞こえてきました。

宴も終盤になり、恒例の炭坑節が流れて全員参加の踊りがはじまり、初めての人も見よう見まねで炭坑節の仲間入りをして最高潮に達しました。

最後の最後に、博多での締めは誰が何と言っても「博多一本締め」と相場が決まっており、全員起立し、博多っ子の榊さんの事前練習と音頭で、みなさん御一緒に チョン・チョン、チョチョンがチョンハイ、お疲れ様でした。来年も楽しく山登りができますように。

参加者：37人

大庭常生、溝部忠増、大城戸昌敏、原 広美、伊藤久次郎、馬場基介、高畠拓生、関口興洋、藤田 傳山田武史、中岡邦男、丹下 洽、大木康子、榊俊一、丹下香代子、竹本正幸、木原 充、池田智彦、赤瀬榮吉、縄田正芳、縄手 修、武永靖弘、森 義雄、深田英美、歳弘逸郎、倉本とき子、橋爪明代、清家幸三、大谷恵美子、畑井教子、高岡 瞳、久原公枝、奥田スマ子、加藤信子、伊藤友紀、俵 富士夫、三浦利夫



12月14日(土)(記念山行)

## 立花山～三日月山

北九400 倉本とき子



国の特別天然記念物のクスノキの巨木を背景に

10時JR香椎駅集合、下原行きバスで終点まで。宅地を抜けて登山口へ、ここで案内板を見ながら説明がありました。10時45分出発、1時間くらいでりょう線に出る。左へとり立花山へ、落ち葉を踏みしめながら登っていくと、クスノキやカゴの木の大

木があちこちに。

11時40分山頂に到着。福岡市街や玄界灘を見渡すことができます。石垣の残る立花城本丸を後に11時50分、来た道の反対に下ると古井戸が残っていた。屏風岩前で昼食となる。

12時30分出発。クスノキ原生林へより道、国の特別天然記念物指定の巨木は樹齢300年、幹回り大人5～6人が手をつないでやっとかな。

道を元に帰り、一周して登りの時の分岐に出る。さらに南へ15分で三日月山山頂に着く。時間に余裕があるのでゆっくり休憩する。

13時30分下原へ下る。下山2時25分夕方からの忘年会の話で足も軽やか。立花山(367m)三日月山(204m)の登山でしたが自然林が多く九州100選にも数えられています。楽しい山行ありがとうございました。

参加者：11人

原 広美、関口興洋、丹下 洽、丹下香代子、  
木原 充、赤瀬榮吉、縄田正芳、縄手 修、  
森 義雄、倉本とき子、大谷恵美子

12月7日(土)

## 年次晩餐会に出席して

15370 森 義雄

12月7日(土)日本山岳会主催平成25年度年次晩餐会が東京都港区品川プリンスホテルで開催され、今年正会員に入会し、初めて出席させていただきました。関口副支部長から晩餐会への出席のお誘いで「新会員は会の途中で壇上に上がり紹介される」とのこと、長い伝統もあり格式のある会に出席させていただきました。

午前中会場に到着、昼食をとり、2時からの講演会まで特別展示(図書交換会、写真展)を見学。

午後2時から、

①青山学院大学山岳部の「ヒマラヤ未踏峰アウトライアー東峰(7035m)初登頂報告」が登頂隊員からおこなわれた。

②平成25年度秩父宮記念山岳賞受賞者記念講演  
(1)飯田肇氏・福井幸太郎氏「立山連峰に於ける越年性雪渓研究および日本初の現存氷河の発見」

(2)日本人初8000m峰14座完全登頂を達成した竹内洋岳氏の講演が行われました。

特に印象的なのは、竹内洋岳氏がプロの登山家を標榜し登山を続けられていることです。講演中熱意と強い意志で登頂された苦労話には聞き入るものがありました。10峰目で雪崩にあい生死をさまよう意識での話、同行者を亡くし、救出され助けていただいた感謝の気持ち、そして再登頂、14峰目登頂



直後の悪天候の中で下山時のリアルな様子など、登山の奥深いお話を聞くことができました。

年次晩餐会は17時45分開場、着席後皇太子殿下が入場され、会が開始されました。森会長のごあいさつ、続いて新永年会員発表、第15回秩父宮記念山岳賞表彰が行われました。

その後、当日出席の今年度新入会員33人が紹介され、私も登壇し壇上から会員の皆様のご様子を拝見しました。紹介が終わり、鏡開き、乾杯後歓談となり、21時前に閉会となりました。

今回の会は、北九州支部からは伊藤支部長はじめ6人の方が出席され、全体で460人ぐらゐの出席者となりました。大勢の出席者がいたにもかかわらず規律正しく、整然と会の運営が進行されていました。

先輩会員へのご紹介もさせていただきました。私は60歳を過ぎての山行参加ですが、今後は諸先輩に同行させていただきながら少しでも楽しい山行になればと感じました。



12月8日(日)

## 天城山登山の感想記

13992 山田武史

平成25年12月7日の品川プリンスホテルで皇太子殿下を迎えての年次晩餐会は、殿下の隣に竹内洋岳さん(8千メートル越え14座の日本人初登頂者)が座られたこともあり、殿下と竹内さんの会話が弾まれて、微笑ましい光景でした。

今年は当支部の新入会員4人の中で、ただ一人参加された森 義雄さんが壇上に立たれて、恒例の新入会員の紹介を受けられました。

われら北九州支部の参加者7人の内5人は、アフター山行として翌8日(日)7:10に品川プリンスホテルを出発し、天城山の登山に向かいました。

当日の天候は曇りで、あいにく富士山の姿は見られなかったのですが、天城山の懐の深さを実感しました。日没後の真っ暗な道を歩き、旅館に着いた時には皆へっぴりでした。

以下、当日の天城山山行について、苦行の8時間半(32,000歩)を、簡単に報告いたします。

## ・12月8日(日)

6:40: JR品川駅発(こだま631号)

7:16 熱海駅着

熱海駅→伊東駅→天城高原ゴルフ場シャトルバス

8:40 登山口到着(トイレ他準備)

9:10 登山口出発

なだらかな歩きやすい道が続くが、万二郎岳ピークは急登。

10:25 万二郎岳(1,299m)到着。

これから向かう万三郎岳が展望できる。天城山の最高峰を確認して10分の休憩後出発する。

12:00 万三郎岳(1,405m)到着。

ピークがいくつもあって、その度にだまされてガッカリしたが、最後の急登を登ると、ここが万三郎岳の頂上だった。

頂上では、大勢の登山者が写真を撮る人、弁当を食べる人で大賑わいであった。我々もここで昼食としたが、気温は下がり小雪も舞って来たので集合写真撮影後、天城峠に向けて早目に下山のこととした。

12:30 万三郎岳を出発、次のポイントは八丁池となる。万三郎岳を出発して10分程で分岐点があり、右に行くと本日の登山口にたどる巡回コースで、我々を追い越して行った登山者は右に行ったと思われるが、我々は左折して長い縦走路に入っ



万三郎岳山頂にて

た。その途中に「ブナの原生林」があった。写真におさめたけれど、これほど密生したブナの原生林を見たのは初めてでした。

長く続く尾根伝いに、どこまでもブナの大木が点在しているのを見ると、どこの山に入っても人工の杉林が多いだけに、自然林に感激すると共に、何かホッとする感じです。

13:45 戸塚峠は、少しの登りだったのでここで小休止。ここからは、りょう線をトラバースするアップダウンのない気持ちの良い歩行だった。

15:10 八丁池に到着したが、ここから最初の計画通り山道を歩いて天城峠に出るか、あるいは、車道を歩いて寒天橋のいずれを選択するかとなったが、関口リーダーの判断で寒天橋ルートに決定して、タクシー会社に連絡を取り、寒天橋に17:30の迎えを依頼した。

15:30 八丁池展望台を出発。砂利道と舗装道路の下り道をひたすら歩く。

17:00 林道の途中でヘッドランプ装着。一瞬にして夕闇が漆黒の闇となり、街灯も星もなく、漆黒の世界を久しぶりに経験した。

17:30 予定通り、寒天橋に到着すると、タクシーも待機しており、タクシーのドライバーが神様に思えた。ここで歩行は終了。

本日の歩行時間は8時間30分でした。

17:30 寒天橋からタクシーに乗車して、旅館「川ばた」着。皆、足やら膝やら腰が痛いと言っており、割り当てられた2階の部屋に上がる階段はきつかった。

何はさておき温泉に入って汗を流す。体の痛みもほぐれ、浴後の夕食でのビールは最高でした。天城峠は越えることができず、きつくもあつたけど楽しい山行でした。

参加者: 5人

伊藤久次郎、関口興洋、高島拓生、山田武史、森 義雄

## 10月20日(日)～21日(月) 第29回全国支部懇談会に参加して

13992 山田武史



ホテル・アソシア静岡にて

平成25年10月20日(日)～21日(月)の両日、第29回全国支部懇談会が静岡支部主管で開催され、全国より約200人の参加であったが、当支部よりは伊藤支部長以下6人が参加した。

10月20日(日)は、ホテル アソシア静岡にて13時より受付。

15時より有元副支部長の司会により開宴され、最初に主催者挨拶として久保田前静岡支部長のあいさつ。来賓として静岡市長及び静岡県文化観光部理事の挨拶があった。

15時30分より記念講演として次の3氏の講演があった。

### ①「日本山岳会の今昔」

講演者：静岡支部永年会員 長田義則氏

J A C入会以来の、接触した方々を史実と自身の感覚を交えて語るその内容は、迫力満点であり、感激を持って聞き入りました。

### ②「富士山におけるスラッシュ雪崩と雪崩による大量山岳遭難事故」

講演者：静岡支部元支部長 安間 荘氏

(日本氷雪学会会員)

「雪代」と言われる表層雪崩を、学術的に研究されている。

### ③「富士山大量遭難その報道と波紋」

講演者：静岡支部元支部長 児平隆一氏

1972年3月に富士山で24人の遭難事故が発生した折は、同氏は地元新聞社に入社間もない機関車(記者になっていない)であったが、その後、安間先生等の研究により遭難防止の一助になっている。

18時より会場を替えて懇親会となった。

最初に大島静岡新支部長の挨拶、続いて森日本山

岳会会長の挨拶の後、尾上日本山岳会前会長の乾杯の音頭で懇親会が開宴。

わがテーブルに着いた静岡支部の出利葉さんは、小倉にも住まいした事があるとの事で話が弾みました。静岡の美味しいお酒をいただき、ありがとうございました。

10月21日(月)は、登山およびハイキングであったが、我々6人はCコースのハイキングを選び、日本平山頂～久能山東照宮～三保の松原を徒歩およびバス移動により見学した。このCコースの参加者は20数人でした。

8時にホテルより日本平の登山口までバスで移動。ここから日本平の山頂までの登山道は、途中に急登はあるが自然林に囲まれた歩きやすい道だった。

11時に日本平の山頂に到着。ここの展望台からの景観は最高でした。眼下に駿河湾が開け、清水港とこれから向かう「三保の松原」もはっきり見えます。残念ながら富士山は雲の中でした。日本平からロープウエーに乗って、「久能山駅」で下車。久能山東照宮を見学。宮司の案内を得て、きつい石段を登り、国宝の本殿でお参りした。この久能山東照宮は、全国東照宮の根本大社(総本家)とのことです。帰路は、表参道の石段を降りましたが、本当にきれいな石段でした。これから、「三保の松原」に向かうこととなりました。

「三保の松原」は世界遺産に登録されたこともあり、観光客の多さにはビックリ致しましたが、それよりも松の太さと背丈の長さには歴史を感じ、感激でした。「三保の松原」を見学後、静岡駅に向かい14時20分に静岡駅に到着。我々の次の予定が15時11分静岡駅発なので十分間に会いました。静岡支部のお世話いただいた皆さまに感謝申し上げます。

参加者：伊藤久次郎、関口興洋、藤田傳、高島拓生、大木康子、山田武史

## 10月22日(火)

## 雨飾山、三度目の正直で登頂

13643 関口興洋

10月20日～21日の静岡支部主管の全国支部懇談会に参加したあと、静岡からJRを乗り継いで南小谷へ向かう。着いたのが午後10時49分。予約したタクシーで小谷温泉の山田旅館へ。

実は昨年6月初めの残雪期にブナの新緑を求めて入山したが時間切れで撤退、10月の紅葉を求めて二度目の入山となったが、悪天候のためまたもや目的を果たせず、今回が三度目のトライとなる。





雨飾山山頂にて

22日、朝食もおにぎり弁当にしてもらい早朝に出発する。天候は曇天ですっきりしないが、登山口から大海川原へ緩やかに下り、湿地帯の木道を歩く。

木道を歩いていると山腹に取り付く地点で「11分の2 800㍍」という標識が現れる。頂上までの4.4kmを11等分して登山口から400㍍ごとに、小谷村役場が立派な標識を設置している。ここで腹ごしらえをして、本格的な登りに備える。

しばらく急登が続くが、周辺の樹林はすっかり紅葉におおわれている。昨年10月、激しい雨で引き返したブナ平はみごとな黄葉に染まっている。

ブナの原生林が緩やかに続き、やがて荒菅沢への下降地点に至る。荒菅沢をとりまく岸壁に映える紅葉と黄葉の混然一体となった風景は見事としか言いようがない。沢を渡り登り返すと岩場が現れ、はしごの助けを借りるところも出てくる。6月に引き返した場所を探しながら、しばらく進むと笹平の平坦な道に出る。やがて新潟県の雨飾温泉からの道と合流し山頂部のピークにとりつく。

最後のひと踏ん張り長野県側の南峰頂上に立つ。標高1963㍍、2等三角点の標石が埋められている。三度目の正直で登頂できたが、残念ながらガスがかり、後立山連峰、妙高山系、日本海の展望は得られなかった。山頂で昼食をとりながら40分ほど滞在したが、ガスがきれず下山開始。

布団菱の岸壁を目に焼きつけて、雨にあわなかったことを感謝しながら往路を戻った。

参加者：5人

伊藤久次郎(3回目)、関口興洋(3回目)、高畠拓生(3回目)、山田武史(1回目)、大木康子(1回目)

コースタイム

山田旅館6:46～登山口着6:57/7:10～ブナ平8:39/8:49～荒菅沢9:41/9:46岩場11:18/11:28～笹平12:12/12:15～山頂12:39/

13:22荒菅沢15:24/14:34～ブナ平16:09/16:11～登山口着17:05

## 森林保全巡視員の委託期間更新

グリーンキーパー副代表 山田武史

森林保全巡視員の更新について、福岡森林管理署に申請しておりましたが、このほど承認となりました。有効期間は、平成25年11月1日～平成27年10月31日です。今回登録された27人の方には、前回同様に活動とレポートの提出をお願いします。

## 森林保全巡視員名簿

有効期限：平成25年11月1日～平成27年10月31日

|    | 氏 名   | 住 所                  |
|----|-------|----------------------|
| 1  | 秦野一彦  | 北九州市八幡西区竹末2-16-13    |
| 2  | 大庭常生  | 北九州市若松区和田町11-13      |
| 3  | 関口興洋  | 北九州市門司区新原町12-27      |
| 4  | 大楠益弘  | 北九州市門司区柳町1-14-19     |
| 5  | 伊藤久次郎 | 田川市西平松町11-8          |
| 6  | 藤田 傳  | 北九州市八幡西区中の原2-5-8     |
| 7  | 磯野文雄  | 糟屋郡新宮町湊坂4-7-5        |
| 8  | 太田 満  | 田川郡福智町上野476-2        |
| 9  | 馬場基介  | 北九州市門司区泉ヶ丘5-46       |
| 10 | 大城戸昌俊 | 北九州市八幡西区上の原3-7-25    |
| 11 | 高畠拓生  | 嘉麻市上山田335-36         |
| 12 | 宮城尚志  | 飯塚市大分1285-37         |
| 13 | 山田武史  | 福岡市早良区昭代3-9-5-502    |
| 14 | 片山俊昭  | 京都郡苅田町小波瀬2-8-17      |
| 15 | 片山礼子  | 一 同 上 一              |
| 16 | 江頭精一  | 北九州市小倉南区志井3-15-1     |
| 17 | 濱松禮子  | 行橋市西泉1-14-8          |
| 18 | 丹下 治  | 北九州市門司区下二十日町4-1-505  |
| 19 | 丹下香代子 | 一 同 上 一              |
| 20 | 三宅清和  | 中津市中央町2-2-12         |
| 21 | 大木康子  | 北九州市小倉北区馬借1-10-3     |
| 22 | 平野一幸  | 糟屋郡須恵町植木1321-19      |
| 23 | 榊 俊一  | 糟屋郡篠栗町尾仲50-17        |
| 24 | 竹本正幸  | 行橋市東泉3-18-10         |
| 25 | 竹本加代子 | 一 同 上 一              |
| 26 | 池田智彦  | 北九州市門司区清見1-12-22-102 |
| 27 | 縄手 修  | 北九州市小倉南区上曾根2-2-18    |

## 公益ボランティア活動

## 平尾台行方不明者の搜索体験と支部のあり方

支部長 伊藤久次郎



平尾台大平山周辺

今回、北九州支部初めての行方不明者の搜索を体験した。その記録を報告する。この体験を通じて、今後の支部のあり方や反省点などを感じた。まずは、その発端から紹介しよう。

## 1. 搜索の発端

まず、この出来事は、平成25年11月13日大楠益弘元副支部長からの報告による。

その内容は11月12日(火)20:26ごろ、大庭前支部長から電話で「友人の北九州観光協会、藤井俊治所長の友人の父親が平尾台(日本三大カルスト・北九州国定公園)で行方不明になった。藤井氏から組織的行動力のある日本山岳会に搜索の協力を願えたらありがたい」との相談があった。その後、藤井氏からの連絡で行方不明者の行動や詳細が判明した。

## ◇行方不明者

住 所 北九州市小倉南区徳力

氏 名 増 重 英 雄

昭和12年12月12日生 (75歳)

服 装 グレーのジャンパー、茶色のズボン、青色ザック、デニムの上着

身体特徴 身長162センチ、中肉中背、毛髪薄し

山行レベル 初心者(後日、経験者と判明)

## ◇行方不明になった日時と本人の行動

11月8日(金) 13:00ごろ、平尾台茶ヶ床園地を出発して貫山(ぬきさん)(712m)に向かった登山者が9日になっても帰宅せず、家族より福岡県警小倉南警察署に搜索願いが出された。

11月9日(土)、家族が平尾台ふもとの駐車場など探索したところ、16:30ごろ茶ヶ床園地に駐車中の自家用車を発見した。車内に、カレーライス、生卵を昼食とした形跡と、山靴と履き替えたとされる

スニーカーあり。また、本人は携帯電話を持っているが、全く応答なし。

## ◇搜索経過状況

11月10日(日) 小倉南警察署員約30人、警察犬、ヘリコプターなどで搜索するも発見できず。その後降雨のため警察犬、臭気追求不能、搜索打ち切り。

11月13日(水) 9:00ごろ、藤井氏ほか数人現地到着。搜索開始。平尾台観光案内所鍛谷氏を藤井氏に電話で紹介、面接をすすめる。同日17:29ごろ、藤井所長より架電。8人で搜

索したが所在つかめずやむなく下山の由。・・・という報告内容であった。

## 2. 北九州支部ルームでの関係者面談と搜索検討会

以上の状況が、11月14日(木)13時、支部ルームに関係者(藤井所長、大庭、大楠、伊藤、山田、丹下)が集合して報告され、また、藤井氏から次のような説明があった。

遭難者本人は、最近登山を始めたばかりで、1週間前にも平尾台の羊群原に登り感激したとのことで、貫山に登ると家族に伝え、茶ヶ床園地に駐車後入山。その日、奥さんと午後5時に小倉駅で待ち合わせの約束であった。

家族の希望としては、本人は山仲間もいないので、フラにもすぎる気持ちで、藤井さんから大庭さんへのルートで、当支部に情報が到達したが、奥さん、息子さん、藤井さんは、その後も毎日のように平尾台に入っている。何とか山岳会の力を貸して欲しいとのことであった。

そして、当支部としては搜索するかどうか、その方針や方法については、17日の山行委員会で検討することにした。

11月17日(日)ルームでの山行委員会で山田事務局長から概要を報告。翌日18日から搜索を実施することが決まり、直ちに参加への呼びかけがなされた。

## 3. 北九州支部の搜索活動

## ◇11月18日(月)

参加者：4人 伊藤 山田 竹本 縄手

搜索第1日目。この時点では、不明者が何処に向かったのか、どのコースを登ったのか、などについては全く不明であったので、平尾台の全コースを踏査することから始めた。

午前9時、平尾台茶ヶ床園地駐車場に集合。2人一組の2班に分かれ、茶ヶ床から大平山(587m)頂



上に至る登山コースとあらゆる踏み分け道、さらに途中のドリーネや枝道など、石灰岩や笹ヤブをかき分け搜索したが手がかりなし。

#### ◇11月19日(火)

参加者：7人 伊藤 竹本 西村(信) 西村(俊)  
馬場、舩木 木原

搜索2日目は、参加者を3班に編成し、茶ヶ床から吹上峠に至る道、吹上峠から大平山への登山道。茶ヶ床から中峠、四方台、貫山、無線塔への登山道など搜索。

11時8分ごろ、大平山頂上から吹上峠方向へ約280m下った登山道端の石灰石の上に、オレンジ色のハンカチ風な形のタオルを竹本隊員が発見、もしかして不明者のものか・・・ということで、写真撮影、GPSによる位置特定などして、伊藤がポリ袋に入れ持ち帰る。同日、不明者の奥さまに電話でタオルの件についてたずねたところ、「オレンジ色のタオルは、家に2枚あったが、1枚しかない。

タオルの形は普通の長いタオルです」との回答であった。後日、このタオルは警察から増重夫人に確認したが、全く関係ないものであった。

#### ◇11月20日(水)

参加者：9人 伊藤 関口 山田 高畠 榊  
丹下(洽)、丹下(香) 大木 畑井

搜索3日目、この日は、新たな情報がもたらされた。前日19日の毎日新聞記事「行方不明：75歳の男性、平尾台で目撃情報を求める」を見て目撃者の届け出があった。目撃者は、門司港の宮下夫妻で、届け出内容によると「当日8日、午後1時30分ごろ、茶ヶ床園地から大平山頂上分岐点まで、増重氏に案内してもらった。分岐点で増重氏は、貫山方向へ向かった。その時は午後2時ごろであった。また増重氏は、自分は高齢なので1人では貫山に行かない、と話していた」とのことであった。

この日、警察による2回目の大搜索も並行して行われた。小倉南警察署長以下30人。県警ヘリコプター1機が参加。

また、吹上峠から大平山に登る登山道で、搜索に参加した榊隊員が、手袋と青いシャツを発見したので、警察に渡して家族に確認したが、全く関係がなかった。

#### ◇11月21日(木)

参加者：5人 板倉、縄手、伊藤、榊、舩木

搜索4日目、午前7時頃から板倉、縄手の2人が、ドリーネなどのくぼ地をザイルなど使って搜索。その後、伊藤、榊が合流し、唐手岩付近と湿原の搜索。

別行動で舩木隊員は貫山まで搜索したが、全て手がかりなし。

#### ◇11月22日(金)

参加者：4人 伊藤、榊、竹本、縄手

搜索5日目、大平山から茶ヶ床方面側の斜面の灌木7カ所に入り込み搜索、手がかり無し。実際の場所は、植物のツタなどが生い茂り、人間が入れる状況ではなかった。



搜索活動中

この他、個人グループによる搜索は、11月14日(木)、16(土)の2日間、丹下夫妻が先行搜索実施。11月30日(土)、搜索を兼ねた平尾台登山の西村夫妻グループ3人や縄手会員の職場グループ(130人)など含め、搜索を実施してきたが、何れも手がかりを発見することはできなかった。

#### ◇11月25日(月)

行方不明者増重氏の窓口となっている藤井氏と当支部ルームで面談し、上記の搜索活動を報告した。その折、藤井氏から感謝の言葉と共に増重夫人の意向として、今後新たな情報が無い限り、日本山岳会北九州支部の搜索活動は、本日もをもって終息していただきたいとのことであった。

一方、われわれもご家族の無念さを忍びつつ、このままでは公益社団法人として何となく心残りであり、支部の搜索体制の確立を視野に入れながら、支部として年内最後の搜索活動を12月中に実施することとした。

#### ◇12月9日、大楠会員からのFAX報告

12月8日、増重氏の息子さんが東京から帰省し、息子さん、増重氏の友人と増重夫人が大楠会員と面会、大楠会員が今までの搜索経過を報告した。この時の息子さんの話によると、父の英雄氏は、当初の藤井氏らの話とは違って平尾台には20回以上登り、他の山々にも家族で相当数登っている。夫人も学生時代上高地から蝶ヶ岳にも登っており、登山一家だったようである。

また、増重氏本人の携帯電話の微弱電波が捕捉された地域については、常時携帯していたスマートフォン、タブレットも見つかっていないとのことである。

12月7日当日、夫人、子息、中村氏ほか数人で岩山から大穴付近を搜索したが、何らの手がかりもなかったそうである。夫人、藤井氏グループは過去7

回、延べ60人位で搜索してきたようであった。

#### 4. 本年最後の搜索活動と今後の支部のあり方

##### ◇12月16日(月)、本年最後の搜索を実施

参加者：15人

原、伊藤、西村夫妻、高畠、関口、山田、 榊、  
竹本夫妻、赤瀬、縄手、森、大谷、倉本

本年最後の搜索は、各人に防寒対策を指示し、寒い曇り空の下、午前9時茶ヶ床園地に集合、2班に分け実施した。今まで未実施の地域である大平山の北側にある大穴の周辺および大穴の底を重点に搜索したが、全く手がかりは得られず、残念ながら増重氏を発見することができなかった。

今後は、一般山行の傍ら、搜索活動も実施するようお願いして、本年最後の搜索を終了した。

今回の搜索は、支部にとっては初めての経験であり、10日間で延べ178人の人が関わった。そして一般人から今回のような相談があったことは、それだけ日本山岳会の名前が、世間に知れ渡り、信頼されているからである。警察が大々的に搜索したが、それでも見つからなかったことで、家族はフラにもする気持ちで、わが日本山岳会北九州支部へ知人を通じて相談したものである。そのような相談があれば、わが支部としても拒否するわけにはいかない。

特に昨年から「公益社団法人」となった以上は「世のため、人のため」を念頭に置いて行動すべきだと思う。また、この行動は、あくまでボランティアであり、本業ではない。その範囲内で、精一杯行動し、そのことが家族に、世間に喜ばれるなら、こんなうれしいことはない。



12月16日 最後の搜索隊員

また、今回の出来事を通じて、反省点も感じた。それは、わが支部も13年目になるのに、未だ満足な遭難時の緊急連絡体制や搜索体制ができていないことである。遭難はいつあるか分からない。この機会に早急に整備する必要がある。

#### 追記

12月24日(火)大楠前副支部長が、増重夫人と中村勝利氏(門司区遺族連合会会長)のお2人を案内してルームに姿を見せました。そして増重夫人から、平尾台での搜索に対して丁寧なお礼が述べられ、併せてお礼ということで金一封(10万円)を頂きました。

このお金は日本山岳会に対する寄付金ということで夫人にもお伝えし、支部同席者一同で感謝の意を表しました。また、その席で大楠氏の話から、平尾台の野焼きが2月23日(日)に実施されることが分かりましたので、もう一度、野焼き後の草原の搜索を実施したいと思います。

10月13日、今日は私ども夫婦の45年目の結婚記念日。

一泊旅行でもと考えていたが、奈良の妹のもとに居る妻の母が帰省するということで、予定を変更、阿蘇「風の丘美術館」へ行くことにする。

美術館の前庭に立つと、今日は雲仙普賢岳がくっきりと見える。丁度居合わせた、二人連れの女性に声を掛けると「ラッキー」と大喜び・・・

館内を鑑賞し、館長の大野勝彦氏やスタッフの皆さまと旧好を温めていると、先ほどの二人の女性が、タクシーを呼んでほしいとスタッフの方にお願いし、タクシーに連絡するが20分以上待つてほしいとのこと。

「それではJRの列車に間に合わない」と困している。行き先を尋ね

ると、「JR赤水駅」とのこと、「私共の帰り道ですので送りましょ」と駅までの間の車内は賑やか、

### ちょっと良い話

14264 母下 裕

女性二人は大阪府宇佐と大阪から来館したとのこと、私共は北九州から「結婚45周年記念のドライブです」というと「まあ私たちの生まれるずっと前だ」話している間に赤水駅に到着です。お互いに名乗ることもなく別れたのですが、明るる日「花キューピット」から花束が届いた。「末永くお幸せに」とのメッセージカードが添えてある。送り主を見ると「宇佐市・藤田 恵」とある。

昨日の女性だと思い、花屋さんに尋ねると詳しい住所は不明とのこと。多分、私共の住所は「風の丘美術館」に問い合わせたのだと思い、確認したが来館者名簿に記載がないとのこと。お礼の申し上げようもない、帰る途中の駅まで同乗させてあげただけなのに・・・。

美術館に問い合わせ、自分の住所は伏せて、わずかの時間を共有しただけの私共夫婦に温かい心遣いをいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。忘れられない結婚記念日になりました。

「一期一会」もうお会いできないでしょうが、ひょっとすると12月の月例山行宇佐の「米神山」で出会えるかな・・・。



9月19日(木)～21日(土) 日本山岳会主催

## 全国安全講習会の参加報告(剣岳周辺)

15370 武永 靖弘

国立登山研修所の後援を得て、日本山岳会YOUTH CLUBの企画により、昨年(平成25年)9月19日～23日にかけて「全国安全登山普及講習会」が剣岳で実施され、各支部の若手会員が剣岳のバリエーションルートに登った。参加者は全国から36人で、そのうちの支部は東海支部8人、四国支部4人、石川支部1人、北九支部1人であった。北九州支部からは、最新の若手新会員である武永靖弘会員が参加したのでその報告を書いてもらった。

9月19日(木)、秋晴れの快晴の天気のもと、期待と不安を胸に室堂に到着する。室堂で各地の日本山岳会の方々、講師の先生方と合流し簡単な自己紹介の後、剣沢夏山前進基地を目指す。

空は一つの雲もなく、風は心地良い絶好の登山日和の中、初対面の自分にみなさんが歩きながら声をかけてくださり、来る前の不安がまずなくなる。雷鳥平からは参加している学生4人だけで雷鳥坂をペース上げて登って来いとのこと、みんなやる気満々で登り、コースタイムの半分以下で登りきってしまう。

名工大の堀内君と2人でザックを剣御前小屋前にデポし雷鳥坂を下り、遅れている人のザックを背負い、小屋まで登り返した。そして剣沢まで下り、前進基地に到着。

基地ではガイドの松原さんより基本的な登攀技術の講義が行われた。パーティごとに翌日の行動、装備等を確認したのち、みんなでテーブルを囲み楽しいひとときを過ごし、早めの就寝。

9月20日(金)、源次郎尾根パーティ(稲葉ガイド、東京支部の菊地さん、武永)は3時半起床4時半出発、快晴の空に中秋の名月が山を照らしている。

アイゼンをつけ剣沢をくだり、取り付へ到着。最初の岩場だけロープをだし、あとはガレ場や岩場を登ったり木の間を縫うように登ったり、あっという間に100m200mとどんどん高度が上がっていく、



剣岳八峰をバックに



中央が武永靖弘さん

その高度感にずっとワクワクしていました。

八峰や後立山連峰を眺めながら肩、1峰を通過し、2峰までたどり着いた。ようやく顔をだした富士山を見ながら休憩したのち、25mの懸垂下降から登り返して25mのクライミング。とても楽しいクライミング講習でした。そこから20分ほどで山頂に到着。

見渡す限りの青空、能登半島もくっきり見えるほど澄んでいる。すばらしい景色を堪能しつつ、別山尾根より前進基地へ14時帰幕。稲葉ガイドよりロープワークの講習を受け、夜はみんなでわいわい。

9月21日(土)、今日山を降りなければならないため、他のパーティを見送った後、前進基地の本部の方々へあいさつをし、前進基地を出発する。東海支部の土屋さんと別山北尾根に取り付き、奥大日岳を目指す。途中雷鳥に出会ったり、写真撮ったりしながら大日岳に到着。新室堂乗越より室堂へ。

わずか3日間の講習会でしたが、すごく充実していて中身の濃い内容でした。この経験ができたのも僕を日本山岳会に誘ってくださった森会長、伊藤支部長はじめ、北九州支部の皆さまのおかげです。感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いします。

## 英彦山中岳氷瀑の名称

## 『四王寺の滝』は「衣の滝」

11454 井上 佑

昔のことながら、この山に初めて登ったのは中学一年のバス遠足であった。航送船で関門海峡を渡り、銅の鳥居から石段を走ったり、歩いたりして中岳の上宮に登り弁当を食べ、土産に木刀を買った。

数年前から「四王寺の滝」と呼ばれる氷瀑が人気を集め、インターネットで宣伝され、二月頃には列をなすほど人が集まるが、少し気温が上がると氷瀑は解けてしまう。この人気の氷瀑が四王寺の滝と呼ばれているのが不可解である。四王寺の滝と名称は近頃急きょつけられた呼び名だそうで、地元では不審に思わないのか、本州に住む他所者の私が調べた結果、異議を挟みその報告である。

この氷瀑へのアプローチは、衣ヶ池から谷をさかのぼるが、この谷には石組みなど寺の遺構が全くないので、私が疑問を持った発端であり、これは四王寺谷ではないと感じた。『北九だより60号』で伊藤支部長が、地元の専門家や添田町に聞いて「当時英彦山には10の谷があり、玉屋神社や鬼杉がある谷を玉屋谷といい、滝がある一帯を四王寺谷といった。また四王寺谷の一帯は、楓の名所で平安時代の瓦など出たところがあり、英彦山の歴史が始まったところかもしれないという。

現在、英彦山修験道館に保管されている昭和初期に描かれた英彦山の鳥瞰図にも、立派な四王寺の滝が書き込まれている」と記したが、この昭和8年の吉田初三郎の鳥瞰図には、屏風岩の下に描かれている滝の名前は記されておらず、四王寺の滝だとは証明できない。添田町自体が何の検討もせずに勉強不足である。

正面参道の『銅の鳥居』から中岳上宮と南岳までの稜線から南西側に流れ出る谷は三つである。行者堂の上から流れ出て溜まったのが「衣が池」であり、川は「衣川」で、下流は「玉屋谷」と変わる。「梵字ヶ岩」の尾根を挟んで、稚児落あたりから流れ落ちるのが「四王寺瀑」で、谷が「四王寺谷」であり、智室窟からは「智室谷」に変わる。中宮から座主院(九大生物学研究所)に流れるのは「南谷」であり、従って今まで四王寺の滝と呼ばれた氷瀑は衣川にあるので「衣の滝」と呼ぶのが妥当である。

問題は、四王寺と呼ばれた寺のあった位置である。私は、鬼杉分岐点から梵字岩入口までの間に多くの石積みが見られるので、これが「四王寺」の跡と見当をつけていた。英彦山座主の子孫である高千穂有

英氏の『幕末秘史英彦山殉難録』に載る「明治初年坊中屋敷図」に、智室窟のそばに「四王寺跡」と描かれ、智室谷の上の四王寺から上流が「四王寺谷」になる。四王寺の下、智室谷に文殊堂と十の坊も描かれている。

添田町教育會が大正15年発行の『英彦山』の31～32ページには「汐井川の水源の一つである衣川は、此付近に源を発している。解脱水と唱ふる泉湧出す。此地に岩鳥抜、八畳岩等の奇岩多し。梵字岩、三尊の梵字を巖にあらわして、たが方便に高く拝する。

四王寺の跡、往時、四王寺のあったところで、薬師如来を安置してあった寺である。花月童子が文学を学びし跡なりと伝う、此の奥に飛泉あり、高さ百尺、四王寺瀑の名がある。山中第一の楓の名所である」と東側から順に西へと書かれ、衣川と四王子瀑の間には梵字岩がある。四王寺の西の石垣は金剛院で、靈山寺が天台修験本山で、英彦山は寺の山であった。

四王寺は東西南北の地域を守る寺である。英彦山の四王寺はどこを守ったのか。英彦山の方位感は現在の東西南北と異なる。中岳の東にあるのに北岳と名付け、西にあるのに南谷と呼ぶ。

四王寺の位置として、昔の感覚からいえば東側の守護神の持国天ではなかろうか。とにかく四王寺の位置も判明し、『四王寺の滝』の位置は変わり「衣の滝」とする名が生まれた。昔の「衣の滝」は水量も豊富であったが、源流一帯が落雷により白骨林になり水は乏しくなった。この復活には、産霊神社上部一帯にブナの植林が望まれる。

名称の誤りは正されたから、これを訂正普及させるべきである。今冬から「衣の滝見物ツアー」も面白そう。添田町観光課にあの滝の名前は、四王寺の滝ではなく「衣の滝」ですよと知らせ、結氷期には衣が池に「衣の滝へ」とメモ表示してもらいたいものだ。



四王寺の滝



10月26日(土)～28日(月)

**広島支部との交流登山・三瓶山へ**

11990 原 広 美



広島青年の家前広場にて

10月26日～28日、北九州支部と広島支部の5回目の交流会が三瓶山で実施された。

26日8時、新下関駅で3台のマイカーに分乗、出雲大社経由で会場の「三瓶山青少年交流の家」へ向かう。15時30分、会場の玄関に到着すると、兼森支部長さんをはじめ広島支部の皆さんに迎えていただく。早々に受付を済ませ18時からバイキングの夕食。

入浴など済ませ19時から同じ食堂で歓迎会が始まる。ビールや日本酒などで饒舌になったところで両支部長のあいさつや自己紹介が始まる。

私にとって広島支部といえば、中央分水嶺踏査がお付き合いの始まりです。広島支部の踏査範囲に山口県が一部入っており、そのお手伝いに北九州支部4人と合同で、日が暮れて真っ暗になる中で踏査しました。それからお付き合いが始まり、お互い交流登山をしては

いかがということになり、ササコリの十方山から始まって英彦山、比婆山、久住山、そして今年の三瓶山で5回目になります。明日に備え早めの就寝。

27日、朝食後全山周遊コース16人(当支部11人)と男三瓶コース11人(当支部2人)に別れて9時スタートした。私は男三瓶コースを選択、青く澄み切った青空に少しの紅葉が映えた秋空のもと、久しぶりに森の香りを嗅ぎながら、初めての男三瓶の山頂を目指す。たくさんの会話や冗談を交わしながら楽しい山登りであった。

男三瓶山頂は一等三角点であった。うれしさのあまり皆さんと固い握手を交わす。思い出に残る交流登山となった。昼食を済ませ、姫逃池14時、予定通り下山した。15分くらいマイカーで走り三瓶温泉で入浴。2日目の宿になっている、北の原キャンプ場へ移動。こちらでは田賀さんの手料理がテー

ブル狭しと並んでいる。新酒や焼酎をいただきながら兼森路子さん手作りの「山の歌詞集」を歌ったり、最高の山仲間の集いであった。

28日、朝食を済ませ帰宅の準備にかかる。来年秋は北九州が当番、由布岳が候補のようです。別れは寂しい。1年後の再会を約束して帰路につく。

参加者：13人 伊藤久次郎、関口興洋、高畠拓生、山田武史、原 広美、内藤正美、榊 俊一、縄手 修、大内喜代子、森本信子、倉本とき子、大谷恵美子、中川鈴子



## 第29回 宮崎ウエストン祭・11月2日(土)～3日(日)

## 「太鼓を思いっきり叩いて・かっぽ酒を堪能」

北九465 伊藤友紀



九州5支部の皆さん

平成25年11月2日(土)、高千穂町五カ所高原の三秀台で16時30分より、第29回宮崎ウエストン祭が開催され、今回初めて参加させて頂きました。三秀台からは雲のかかった祖母山が見えました。

ウエストン祭は日本近代登山の父であるウォルター・ウエストン師をしのび、山岳遭難者に追悼の意を表し登山の安全を祈るという事を知り、ウエストン碑の鐘の音が胸に響きました。

式典では地元の田原小学校の生徒も参加しており、点鐘や作文朗読、ウエストン祭の歌の合唱では曇り空に負けないくらい明るく元気いっぱいの歌声が響きわたり笑顔に包まれました。

17時30分、別会場で交流会が開催され、かえでの葉が添えられたおにぎりや佃煮、地鶏の炭火焼きなど販売され、どれもおいしく気付けば手が伸びていました。

小腹が満たされたころ、神事

が始まり、主催者の方や来賓の方のあいさつの後、神楽が披露され、かっぽ酒が振る舞われました。

かっぽ酒とは青竹筒に焼酎を入れたき火で燗をつけたもので、竹の油分が酒にしみだして独特の風味になるという高千穂の名物酒。竹筒のおちょこをもらい、その中にあつあつのかっぽ酒が注がれ口にすると、良い香りがふわっと口の中に広がり、地鶏との相性も抜群でとても美味しく頂きました。

かっぽ酒を堪能していると、今年の新婚さん夫婦によるキャンプファイヤーの点火式が行われ、赤く輝く炎の前で腕を組み、坊がつる讃歌を熱唱!体の芯から温まりました。また、本陣太鼓鳴瀧会による力強い演奏では、飛

び入り参加で太鼓を思いっきり叩かせてもらったり、大満喫しました。

その後、五カ所公民館で5支部懇親会がありました。50人以上集まり、うどんや煮付けなどおいしいご飯が振る舞われ、各支部の紹介では、歌を歌ったり自己紹介があったり、笑顔が絶えず盛り上がりました。また他支部の方たちとも話せ、交流できて嬉しかったです。



ウエストン祭記念行事



## 11月3日(日) <雨の清栄山登山>

翌日、全員で朝食を食べた後、赤川浦岳や祖母山など、それぞれ記念山行へ向けて出発し、北九州支部は清栄山(1006m)へと向かいました。

8:50黒岩登山口を出発し、30分程で頂上に到着。雨と霧で景色は真っ白でしたが、登山口近くにはむかごの実がなっていたり、途中、ツルリンドウやアザミやグミの木など様々な植物があり、教えてもらいながら楽しく登ることができました。

雨で下りは滑りそうでしたが、教えてもらった足首を柔らかく

する体操をして、しっかり柔軟したおかげでけがすることなく下山できました。

ウエストン祭に参加して、地元のおいしいご飯を食べられて、いろんな方と交流でき楽しい時間を過ごすことができました。そしてこれからもっといろんな山に登って、それぞれの山の魅力に触れたいと思いました。そのために、たくさん事を学んで経験して吸収し、安全第一の登山を目指します。

今回ウエストン祭に参加させて頂きありがとうございました。



清栄山山頂にて

参加者：14人

伊藤久次郎、関口興洋、山田武史、日向祥剛、原 広美、高島拓生、丹下 治、丹下香代子、大木康子、竹本正幸、竹本加代子、縄手 修、伊藤友紀、三浦利夫

日本山岳界育ての親、英人牧師ウォルター・ウエストン氏が日本アルプスに初登山する前年の明治二十三年十一月六日秀峰「祖母山」に登山していることが五ヶ所の矢津田日記にて昭和三十年後半に確認立証された。昭和四十年三月「祖母、傾国定公園」に指定され機を逸せず高千穂町議会にウエストン碑建設特別委員会を設置し議長佐藤正松氏を委員長として町内外多数の方々の浄財を戴き、昭和四十一年十一月六日英国のウエストン生家より贈られたヨークシヤ石・矢津田日記の一文、ウエストン氏のレリーフを配した記念碑がウエストン氏が通ったであろう旧道横にあたるこの三秀台に英国大使館より祝賀メッセージをいただき、除幕式が盛大に行われた。その後地元北陵山岳会が中心となり、碑へ洋鐘をとの話を持ち上がり、各地山岳会や町内の方々の御理解と御協力を戴き、昭和四十七年五月二日、日本山岳会、日本山岳協会から小島六郎氏、尾関 広氏の出席を仰ぎ懸鐘式を挙行、ここにウエストン碑の完成をみた。昭和六十年十一月三日、高千穂町と日本山岳会宮崎支部において、第一回ウエストン祭を共催、昭和六十一年には、日本山岳会会長今西寿雄氏、元会長西堀栄三郎氏の出席を得以後回を重ね奇しくも本町町制七十周年をウエストン氏祖母登山百周年、を迎えるに当り碑の経緯を記するものである。

平成二年十一月三日

高千穂町長

甲斐敏常

平成24年9月末日、60年5カ月間の勤務を終了。61才のころ、長野冬季オリンピック準備で松本市の出張工事に従事している折、北アルプスの白い峰々を見て、妻に電話したところ「山に登ったら!」との一言で目覚める。

平成7年より登山記録を書き始めて平成25年12月27日まで19年間で1270日、登山道整備、山旅、里山ガイド等、68才で日本山岳会に入会し、山下健夫エベレスト登頂者とネパール同行の折8000m峰空撮をする。サラ

ンコットよりダウラギリ、アンナプルナ峰を写真撮影、近くまで歩けたらなと夢を見ていました。富士山冬季登山にも山下ガイドに同行する。

## ◇◇山の人生記録◇◇ 13541 高島拓生

入山日を調べてみると、68才：91日、69才：105日、70才：113日、71才：110日 カラパタル72才：85日 分水嶺踏査、剣岳、白馬岳、73才：72日 スイス山旅 燕岳、常念岳、槍ヶ岳、八ヶ岳、

75才：67日 富士山、アンナプルナBC、76才：70日 腰椎手術、77才：49日 復帰槍ヶ岳、80才：112日 富士山、南アルプス、土埋山、弥彦山、雨飾山、三瓶山へ。

80才を機に仕事面で世話になった地域、市観光まちづくり協議会加入、老人福祉関係の世話など、山に恩返しの意味で登山道整備、里山ガイド(市観光課PR依頼)のボランティアをしている。

山に関わって、生涯楽しい日々を過ごしたいですね。

月例山行・11月27日(水)

## 「田原山の紅葉と熊野磨崖仏観賞」

No.14916 赤瀬 栄吉



狭い頂上、すぐ横は絶壁です

大分県国東半島に近い紅葉と岩峰で知られる田原山(通称鋸山)に女性6人、男性4人 計10人で登った。

今回が初めてのC.L.で天気であること願った。早朝の天気予報は午前中曇り、昼からは晴れの情報に安堵した。私は、帰省中(妻の実家)で別府市内から向かう途中、J.R.杵築駅で畑井さんに乗せ集合場所に30分前に着いた。(登山前に下山口の熊野神社側に2台配車)

集合時間に少し遅れた車(3人乗車)もあったが全員そろい、10時50分駐車場の紅葉を背に登山開始。

登山道に入ると9月下見したときの森は伐採され野原となっていた。登山道も所々重機により削られ迷いそうなところもあったが、仮設標識を頼りに登って行くと30分程で、栗岩に着いた。

再び登り始めるとすぐ岩場となる。この岩場の先の岩峰が大観峰(542m)で11時40分山頂に着いた。これから高低差が小さいアップダウンの繰り返しで熊野神社への縦走コースをとる。

まず、目と鼻の先にある八方岳へ、一方通行の鎖場を下り、登り返すと四方切り立った八方岳に12時4分に着いた。

ここから別府湾、高崎山、由布岳、鶴見岳などが一望できたが、山頂は狭く、身を寄せ合い集合写真を撮ると昼食場所を求め足早に下った。

5分ほど進むと岩尾根で狭いが、分散すれば座れる眺めの良い場所でおいしい弁当を食べた。

やせ尾根に出ると帽子も飛ばされそうな風も吹き慎重に足をはこぶ。股覗き岩あたりから北側に目立った太陽石(男性のシンボルを思わせる)、衝立岩、

屏風岩ほか、田原山を代表する岩峰奇岩を眺めながら進むと、昼食場所に予定していた無名岩に13時10分に着いた。紅葉がきれいでここで少し休憩した。

熊野磨崖仏分岐では、見返り岩に立ち寄り、真下に登山口の駐車場が見えた。分岐に戻り熊野神社へ雑木林を進むと熊野神社敷地内、拝観料200円の看板が目にとまる。

さらに下ると数分で熊野神社に着き、参拝を早々にすませ神社下の熊野磨崖仏に13時50分に着いた。熊野磨崖仏は国指定重要文化財で大きさは、不動明王像8m、大日如来像6.8mで見上げしばし観賞した。平日にもかかわらず多くの観光客が訪れ、息をきらし石段を登ってきた。

もう少しですよ、頑張ってと声をかけ300m程下ると熊野神社駐車場側に14時5分無事下山した。

神社受付で拝観料を納め、回していた車に全員乗り込み登山口駐車場に14時20分到着。ここで、お風呂・直帰組みに分かれ解散した。温泉組み4人は山香温泉・風の郷で疲れを癒し帰路に着いた。私は畑井さんをJ.R.杵築駅まで送り別府へ向かった。参加者:10人

原広美、高島拓生、榊俊一、大内喜代子、竹本正幸、竹本加代子、赤瀬栄吉、倉本とき子、大谷恵美子、畑井教子、

## 馬の山(干支の山)

## (九州・近郊の山)

- |         |       |    |
|---------|-------|----|
| 1. 馬ノ瀬  | 538m  | 山口 |
| 2. 馬糞ヶ岳 | 985m  | 山口 |
| 3. 伏馬山  | 499m  | 山口 |
| 4. 対馬見山 | 243m  | 福岡 |
| 5. 馬ヶ岳  | 216m  | 福岡 |
| 6. 馬見山  | 978m  | 福岡 |
| 7. 馬子山  | 1150m | 熊本 |
| 8. 足毛馬  | 174m  | 長崎 |

- |         |       |     |
|---------|-------|-----|
| 9. 但馬岳  | 385m  | 長崎  |
| 10. 馬頭山 | 236m  | 長崎  |
| 11. 駒瀬山 | 652m  | 宮崎  |
| 12. 馬口岳 | 1435m | 宮崎  |
| 13. 馬鞍岳 | 211m  | 鹿児島 |



前回私は、北九だよりであえて「九重山」の名称を使用した、その経緯を含めてこれらの名称について触れてみたい。

そもそも、「九重」と「久住」の違いはどこからくるのか。もともと久住山は九重連峰の中の雄峰の一つであると

いう認識が一般的であろう。しかしながら、登山家の天本孝知氏(大正11年生)によると、どうもそうではないらしい。

九重連峰は昔、朽網山(くたみやま)と呼ばれていたという。朽網山については、北九だより63号において井上佑会員が詳しく触れていることもある。

天本氏によれば豊後国風土記(八世紀)の中で「九重、大船、黒岳の三峯に硫黄山、三岐山(三俣山)、涌出山(涌蓋山)の三山を加えた山を総称して朽網山といった」と記されているそうである。すなわち今の「久住山」は、当時「九重山」と呼ばれていたということになる。

明治になり陸軍陸地測量部によって測量図が作成された際に「九重山」を「久住山」と記し、総称で呼ぶ山々を九重連峰としたとのことである。

## 「九重山」か「久住山」か

13465 大楠 益弘

つまり今の「久住山」は、昔は「九重山」と呼ばれ「朽網山」は今の九重連峰を指してい

たということになる。

現在の「朽網」の名が残っているのは竹田市側表参道の沢水あるいは、みどり高原牧場から坊がつるへ出る径にある「くたみ分れ」のみのようである。昔、坊がつるの水場を求めてやって来る獣を目指す狩人が旅人の往来のための道しるべであったのか。

万葉集読み人知らずの相聞歌がある。「朽網山夕入る雲のたなびかば、われは恋む名君がめをほり」古代へのロマンは限りなく広がっていく。

なお、前号支部報において富士山の「フジ」は「日の山」ではなくて「火の山」を意味するので訂正したい。

## 日本全国難読山名サミット

### かんとうだけ みおうやま 月出山岳と一尺八寸山を歩く

福岡支部会員 五十嵐 賢

ヤマケイ社の取材で10月26、27日の両日、上記サミットに出かけた。大分県日田市東有田にある多田多目的交流館がメイン会場で初日の26日は月出山岳、一尺八寸山登山と夜は、焼酎を酌み交わしながらの夜なべ談義、翌27日は記念講演とパネルディスカッションとなっているがわが「山のたより」では主に初日の山歩きについて書いてみる。

2台のマイクロバスに分乗した約40人の参加者は登山口で一般参加者20人と合流して林道を歩き始める。多くの報道陣は軽トラックで登山者の行列を追いかけ、目指すは月出山岳、かんとうだけと読む。全国難読山名第3位の山だ。山名のいわれは省略するが地元ではこのサミットに合わせて平成24年から登山道の整備や標識、展望台を設置している。



一尺三寸山山頂

この山は3つのピークからなっていて1番坊主は日田市に、3番坊主は玖珠町に、2番坊主はその境界線上に位置している。1番坊主(678m)に東有田地区で設置した展望台がある。

山頂は展望に優れ万年山(はねやま 隣町の玖珠町にあり難読山名12位)が

近くに、遠くにくじゅう連山、釈迦、御前の山並みが連なっている。全員で飛ばした風船が青空に小さく流れていく。

次に目指すのはマイクロバスで一尺八寸山(706.7m)、みおうやまと読む。こちらが全国難読山名第一位の山だ。つまり東有田地区には全国1位と3位が揃っているのだ。こちらも山名由来は省略するが林道歩き40分、登山道10分で山頂、松林に囲まれ展望は全くないが第1位にふさわしく立派な標識がいくつもたっている。この前で地元の子供3人がタイムカプセルを埋め、サミットの成功を祝って全員で万歳を三唱して下山。

翌日のパネルディスカッションには難読山名コンテストの仕掛け人である鳥越章夫氏が参加され、コンテストの経緯などを話された。閉会后、彼と紹介者の山仲間2人の4人で暫く歓談。この日新発売された甘酒「一尺八寸山」2本をお土産に帰宅の途についた。

(五十嵐氏のEメールから)

## 平成 26年度 山 行 計 画 (案)

北九州 支部

| 年                      | 月  | 日                 | 山 行 計 画                      | 担 当      | 難易度 | その他の行事・講習・スキー教室                        |
|------------------------|----|-------------------|------------------------------|----------|-----|----------------------------------------|
| 平成<br>二<br>十<br>六<br>年 | 4  | 6日(日)             | 英彦山清掃登山                      | 伊藤       | *   | ・4月12日(土)～13日(日)<br>園川学校(皿倉山)一泊講習(竹本)  |
|                        |    | 20日(日)            | 岩登り教室(平尾台)                   | 板倉       | *   |                                        |
|                        | 5  | 8日(木)             | 犬が岳(シャクナゲ)                   | 山田       | **  | ・5月11日(日) 園川学校(竹本)<br>救助を含む岩場          |
|                        |    | 18日(日)            | 岩登り教室(平尾台)                   | 板倉       | *   |                                        |
|                        |    | 24日(土)～<br>25日(日) | 英彦山山開き                       | 縄手<br>伊藤 | *   |                                        |
|                        | 6  | 5/30～<br>6/3(月)   | 徳本峠～上高地～焼岳                   | 関口<br>山田 | *** | ・6月1日(日) ウェストン祭<br>・6月14日(日) 園川学校(沢登り) |
|                        | 7  | 19日(土)～<br>21日(月) | 沢水～稲星山～鳴子山                   | 内藤       | **  | ・7月13日(日) 園川学校(縄手)<br>(ザイルワーク)         |
|                        |    | 29日(火)            | 水無鍾乳洞～井原山～<br>アンの滝(キツネノカミソリ) | 山田       | *   |                                        |
|                        | 9  | 7日(日)             | 大日ケ岳(英彦山)～釈迦ケ岳               | 縄手       | *   |                                        |
|                        |    | 28日(日)            | 岩登り教室(平尾台)                   | 竹本       | *   |                                        |
|                        | 10 | 11日(土)～<br>13日(月) | 広島支部との交流<br>由布岳(お鉢めぐり)       | 山田<br>内藤 | **  | 10月18日(土)～19日(日)<br>全国支部懇談会(埼玉)        |
|                        |    | 19日(日)            | 岩登り教室(平尾台)                   | 竹本       | *   |                                        |
|                        | 11 | 1日(土)～<br>2日(日)   | 宮崎ウェストン祭<br>祖母山(北谷)          | 竹本<br>森  | *   |                                        |
|                        |    | 16日(日)            | 池田バス～孔大寺～湯川山                 | 山田 赤瀬    | **  |                                        |
|                        | 12 | 2日(火)             | 宝満山～三郡山縦走                    | 赤瀬       | **  | 12月6日(土)年次晩餐会<br>・忘年の集い(下関)            |
|                        |    | 13日(土)～<br>14日(日) | 忘年登山 北浦スカイライン                | 井上       | *   |                                        |
| 平成<br>二<br>十<br>七<br>年 | 1  | 11日(日)            | 新年登山.足立山～戸ノ上山                | 馬場       | **  | ・                                      |
|                        |    | 18日(日)            | 英彦山(冬山訓練)                    | 榊        | *   |                                        |
|                        | 2  | 7日(土)～<br>11日(水)  | 八ヶ岳(冬山合宿)                    | 竹本       | *** | ・2月22日(日) 園川学校(縄手)<br>・スキー合宿(池田)       |
|                        | 3  | 21日(土)～<br>22日(日) | 皿倉山～採銅所縦走<br>小屋泊まり(荒宿荘)      | 中岡<br>縄手 | **  | ・スキー合宿(池田)                             |
|                        | 4  | 5日(日)             | 花尾山(山口)                      | 大内 大木    | *   |                                        |
|                        |    | 12日(日)            | 英彦山清掃登山                      | 山田 森     | *   |                                        |
|                        | 5  | 3日(日)             | 経読岳縦走                        | 山田       | **  |                                        |

難易度(初級\* 中級\*\* 上級\*\*\*)



## ルーム当番

会員はいつでも警備室からキーをもらって入室できます。  
当番へのご協力をお願いします。連絡先：山田武史（TEL092-844-3565）



### 1 月

|        | 当番 | 備 考 |        | 当番 | 備 考 |        | 当番 | 備 考   |
|--------|----|-----|--------|----|-----|--------|----|-------|
| 1日(火)  | /  |     | 11日(土) | /  |     | 21日(火) | 関口 |       |
| 2日(木)  | /  |     | 12日(日) | /  |     | 22日(水) | 伊藤 | 小倉サロン |
| 3日(金)  | /  |     | 13日(月) | /  |     | 23日(木) | 木原 |       |
| 4日(土)  | /  |     | 14日(火) | 森  |     | 24日(金) | 竹本 |       |
| 5日(日)  | /  |     | 15日(水) | 竹本 |     | 25日(土) | /  |       |
| 6日(月)  | 丹下 |     | 16日(木) | 木原 |     | 26日(日) | /  |       |
| 7日(火)  | 関口 |     | 17日(金) |    |     | 27日(月) | 丹下 |       |
| 8日(水)  |    | 役員会 | 18日(土) | /  | 普賢岳 | 28日(火) | 山田 |       |
| 9日(木)  | 馬場 |     | 19日(日) | /  |     | 29日(水) |    |       |
| 10日(金) | 伊藤 |     | 20日(月) | 丹下 |     | 30日(木) | 馬場 |       |
|        |    |     |        |    |     | 31日(金) | 森  |       |

### 2 月

|        | 当番 | 備 考   |        | 当番 | 備 考     |        | 当番 | 備 考   |
|--------|----|-------|--------|----|---------|--------|----|-------|
| 1日(土)  | /  |       | 11日(火) | /  |         | 21日(金) | 竹本 |       |
| 2日(日)  | /  |       | 12日(水) | 竹本 |         | 22日(土) | /  |       |
| 3日(月)  | 丹下 |       | 13日(木) |    |         | 23日(日) | /  |       |
| 4日(火)  | 関口 |       | 14日(金) |    |         | 24日(月) | 丹下 |       |
| 5日(水)  | 伊藤 |       | 15日(土) | /  | スキー合宿   | 25日(火) | 森  |       |
| 6日(木)  |    | 博多サロン | 16日(日) | /  | スキー(九重) | 26日(水) | 伊藤 | 小倉サロン |
| 7日(金)  |    | 伯耆大山  | 17日(月) | 丹下 |         | 27日(木) |    |       |
| 8日(土)  | /  | 冬山合宿  | 18日(火) | 関口 |         | 28日(金) | 山田 |       |
| 9日(日)  | /  | 同上    | 19日(水) | 伊藤 |         |        | /  |       |
| 10日(月) | 森  | 同上    | 20日(木) |    |         |        | /  |       |

### 3 月

|        | 当番 | 備 考 |        | 当番 | 備 考 |        | 当番 | 備 考   |
|--------|----|-----|--------|----|-----|--------|----|-------|
| 1日(土)  | /  |     | 11日(火) | 関口 |     | 21日(金) | /  |       |
| 2日(日)  | /  |     | 12日(水) |    |     | 22日(土) | /  |       |
| 3日(月)  | 丹下 |     | 13日(木) |    |     | 23日(日) | /  |       |
| 4日(火)  | 関口 |     | 14日(金) | 山田 |     | 24日(月) | 丹下 |       |
| 5日(水)  | 伊藤 |     | 15日(土) | /  |     | 25日(火) | 竹本 |       |
| 6日(木)  | 竹本 |     | 16日(日) | /  |     | 26日(水) | 伊藤 | 小倉サロン |
| 7日(金)  |    |     | 17日(月) | 丹下 |     | 27日(木) |    |       |
| 8日(土)  | /  |     | 18日(火) | 関口 |     | 28日(金) | 関口 |       |
| 9日(日)  | /  |     | 19日(水) | 伊藤 |     | 29日(土) | /  |       |
| 10日(月) |    |     | 20日(木) |    |     | 30日(日) | /  | 馬ヶ岳   |
|        |    |     |        |    |     | 31日(月) | 丹下 |       |

# 福智山1000回登山達成

## 「いまだ通過点」新たな目標掲げる

北九州支部 北九423 橋爪久吉さん

小倉北区で「すし店」を経営する橋爪久吉さん(70)が昨年10月6日、小倉南区と直方市、福智町にまたがる福智山(901m)の1000回の登山を達成した。20年かけての快挙で山の仲間も一緒に歩いて山頂で祝福した。

小倉北区京町で「吉すし」を経営する橋爪さんは1993年秋、登山好きの客に刺激されて福智山の登山を1人で始めた。店が休みの日曜と祝日を使って歩いた。2年後に明代さん(58)と結婚。

その後は2人で福智山を登ることが多くなった。「登山は何より、健康に良い。イノシシ、サル、ウサギといろんな動物を見かけて楽しい。山の友達と話すことも魅力だ」と久吉さん。「季節の花が美しい。夏はナツエビネ、秋はススキがみられる」と明代さん。

雨や風が強い日もできるだけ登る。「登山道の風倒木を脇に片付けながら歩くこともある」「雪に腰まで埋まりながら進むことも体験した」と久吉さん。「このごろは山ガールも多くなった」と時の流れも語る。お盆には日本アルプスなど他県の山にも夫婦で挑んでいる。

福智山にはさまざまな登山コースがあるが、1000回記念は小倉南区のます沢ダム横から橋爪さん夫婦と仲間とで3時間余りかけてゆっくり登った。山頂はガスがかかっていたが「祝福智山1000回登山」の横断幕を掲げ、ソフトドリンクで乾杯した。「2時間余り、黙々と歩く登山は生きがいになった。1000回は通過点で、あと500回は福智山に登りたい」と久吉さんは新たな目標を語った。

毎日新聞(平成25年10月9日)より

## 門司山歩会解散へ

13465 大楠 益弘

去る9月21日(土)門司山歩会は、登山同好会としての幕を閉じた。その原因は支部から講師として派遣されていた私の体調不良にある。5月の犬ヶ岳山行以来調子が悪く、任務を全うできそうもないため、9月4日(水)の役員会に計った結果門司山歩会で善後策を講じてもらうことになった。

9月21日当日、私の身体の状態を話し、かつ代わりの講師派遣の困難な状況を説明した結果、会の活動を継続していくには種々の難題があり、止むなく解散することが決定した。

この山岳会は、主として門司大里南市民センターの登山教室の受講者により発足したものである。ここ10年間5カ所の市民センターで登山教室を開設してきた結果、同好会結成の要望が強くなり門司山歩会の発足となった。

平成18年8月以来、平成25年

8月までの7年間、悪天候の日を除き毎月1回の山行を実施してきた。会費は、月額300円で内200円×会員数が支部の指導料として計上されてきた。会員数は25人前後であったが、死亡、内科外科の疾患、転勤、親族の介護などのため会員数異動は多くあった。この間、当支部との交流登山は戸ノ上山、獺師山、星生山、黒岳、二丈岳、英彦山(3回)門司城跡めぐり、30m門司ウオーキング、皿倉山など12回実施した。JACの活動内容を理解してもらい入会につなげたいと念願したが実際は6人の入会にとどまり、私の努力不足を大いに反省している。

9月21日(土)当日も改めて支部山行計画を示し、入会を勧めたが、成果はなかった。現在相当数がNHK登山講座に入会しており、当日は会員から門司歩こう会の話が出、大半が興味を示した。その理由は、よく判らないが福

智山、犬ヶ岳、背振山、久住山、三俣山、大船山などのメジャーな山の計画が多く、マイカー使用の必要のないことが、この両者に共通している点であるのは確かである。

結果として10月5日(土)門司歩こう会会長小田幸雄氏と会合を持つこととなった。当日は、同会長と昵懇の丹下会員にも出席してもらい会長をみんなに紹介してもらった。種々の話合いの結果、大半が門司歩こう会入会の決意をしたように思われる。

以上、私の努力不足でかような事態となったこと、誠に残念で申し訳なく思っているが、もし許されるならば地域貢献事業としての登山教室は引き続き開設していきたいと考えている。

なお門司山歩会山行においては、リーダー、アドバイス役など支部会員の西村ご夫妻には一方ならぬお世話いただいたこと末筆ながら紙面をお借りして改めて謝意を表したい。



# 会 務 報 告

## ● 平成25年11月定例役員会報告

- ・日 時：平成25年11月6日(水)
- ・場 所：当支部ルーム(毎日会館1F)
- ・出席者：伊藤、板倉、関口、日向、馬場、山田、丹下、竹本、木原、池田、縄手、大楠、中岡
- ・欠席者：なし
- ・議 題：
  - (1)会員の異動(11月1日現在)
    - 通常会員 80人(森、深田、歳弘入会) + 3人
    - 支部友 62人(森、深田減、中川、伊藤、岡部入会) + 1人
    - 会友 4人 + - 0人
    - 計 146人 + 4人
  - (2)会費の納付状況
    - 未納者は7人(前回より3人減)
  - (3)山行・行事報告
    - ・9月7日(土) 血倉山(園川講師による山岳技術専科)は、本年度最終回にて、20人の参加。尚、10月30日のサロンで園川講師の慰労会を行った。
    - ・9月19日(木)～21日(土) 本部主催全国安全講習会(剣岳) 当支部より新人1人参加
    - ・9月21日(土) 岩登り教室(講師：板倉副支部長)は、参加者11人。
    - ・9月28日(土)～29日(日) 九州5支部懇談会(主管：福岡支部) 当支部より13人参加。
    - ・10月11日(金)～12日(土) 「山の日」タウンミーティング(長者原)は当支部より1人参加。
    - ・10月11日(金)～13日(日) 安全登山指導者講習会(阿蘇山)は、当支部より2人参加。
    - ・10月20日(日)～21日(月) 全国支部懇談会(主管：静岡支部)は、当支部より6人参加。
    - ・10月21日(月)～23日(水) 雨飾山登山に5人参加。
    - ・10月26日(土)～28日(月) 広島支部との交流登山(三瓶山)は、当支部より13人参加。広島支部よりは16人だった。
    - 11月2日(土) 宮崎ウェストン祭は、当支部より14人参加。
    - ・11月3日(日) 当支部12人が清栄山、他2名が祖母山登山。
  - (4)山行・行事計画
    - ・11月10日(日) 筋ヶ岳

- ・11月27日(水) 田原山
- ・12月7日(土) 年次晩餐会(品川プリンスホテル)
- ・12月8日(日)～9日(月) アフター山行(天城山)
- ・12月14日(土) 支部「年忘れの集い」(博多サンヒルズホテル)
- ・12月21日(土) 米神山
- ・1月5日(日) 妙見岳、普賢岳(平成新山)
- (5)来年度通常総会の日程について
  - 4月26日(土)で会場を検討中
  - 当日の記念講演者として「君原謙二氏」の提案があり検討中。
- (6)山行委員会、安全対策委員会の開催について
  - ① 縄手山行委員長には、来年度の山行計画の策定を依頼した。
  - ② 板倉安全対策委員長には、安全登山及び遭難対策のルール策定を依頼した。
- (7)その他
  - ① 門司山歩会の今後について
    - 代表を務めていた大楠監事より、門司山歩会は解散することとした旨の報告があった。
  - ② 300百名山の取材状況
    - 当支部の担当は、脊振山、英彦山の2山ですが、写真撮影担当の伊藤支部長より、9割方は出来たので後は冬景色を撮影して完了との報告があった。

(記載者：山田武史)

本

の紹介

## 〈続〉一等三角点全国ガイド 身近な三角点から憧れの三角点

500m未満の一等三角点に初めて光があてられた。それらは低山のハイキング向きの山だけにあるのではなく、近くはゴルフ場、住宅の庭、マンホールの中など、遠くは岬の先端から絶海の孤島まで、存在していて興味深い。好評「500m以上」に続く続編！

一等三角点研究会 編著  
ナカニシヤ出版  
定価(本体1,800円+税)



# スキー台宿

## 2月＜九重スキー場＞

1. 日 時：2014年2月15日(土)～16日(日)
2. 場 所：九重森林公園スキー場
3. 行 程(スキーバス利用)
  - ・2月15日(土) 小倉6:15～博多8:00～基山8:40～九重スキー場10:30スキー場16:00～筋湯温泉大黒屋17:00 夕食
  - ・2月16日(日) 朝食 筋湯温泉大黒屋9:00～スキー場9:40～スキー場16:00九重温泉(16:15～17:15)～基山18:45～博多駅19:30～小倉21:00頃
4. 宿泊先：筋湯温泉大黒屋TEL (0973-79-3711)
5. 参加費：
  - A 25,000円(バス代、宿泊料、リフト券、グレンデ入場料、保険料)
  - B 29,000円(同上+レンタルスキーおよびスキーウェア付き)
6. 申込み：池田智彦 TEL:093-331-6259
7. 締切り：1月22日

## 3月＜大佐スキー場＞

1. 日 時：2014年3月14日(金)～16日(日)
2. 場 所：大佐スキー場
3. 行 程
  - 3月14日(金) 小倉KMMビル：23:55～みちしお1:30(休憩)～車中泊
  - 3月15日(土) 大佐スキー場6:00～9:00 朝食ほか講習会(終日楽しく雪の中)スキー場16:00～いこいの村ひろしま16:30
  - 3月16日(日) いこいの村8:00～スキー場9:00～講習終了15:00 大佐スキー場16:00～みちしお19:00～小倉20:30頃
4. 宿泊先：いこいの村ひろしま TEL (0826-29-0011)
5. 参加費：
  - A 21,000円(バス代、宿泊料、リフト券、保険料他)
  - B 26,000円(同上+レンタルスキーおよびスキーウェア付き)
6. 申込み：池田智彦 TEL:093-331-6259
7. 締切り：2月17日

## お知らせ

### ●中止になった月例山行

- ・平成25年11月10日の筋が岳
  - ・平成25年12月21日の米神山
- どちらも雨天のため中止になりました。

### ◎予定変更(普賢岳)

- ・平成26年1月5日(日)⇔1月18日(土)
- 1月5日(日)の普賢岳は帰省ラッシュのため渋滞が予想されるので1月18日に変更になりました。

- ・新入会員紹介 (平成25年10月～12月)
- |       |    |    |     |     |
|-------|----|----|-----|-----|
| 15416 | 歳弘 | 逸郎 | 防府市 | 65才 |
|-------|----|----|-----|-----|

- ・新入支部友紹介 (2人)
- |       |    |     |     |     |
|-------|----|-----|-----|-----|
| 北九467 | 俵  | 富士夫 | 遠賀郡 | 65才 |
| 北九468 | 三浦 | 利夫  | 大宰府 | 51才 |

### 信州長野県観光協会の方が表敬訪問

11月25日(月)信州長野県観光協会の塚本さんはじめ2名の方が毎日新聞を表敬訪問された折、北九州支部のルームにも立ち寄り、今後の交流等について歓談しました。

### 吉村初代支部長から ルーム資金の高額寄付を頂く 先ずは200口(1口1000円)

日本山岳会永年会員であり、北九州支部名誉会員である吉村健児(No.3173)初代支部長から、1月15日伊藤久次郎、山田事務局長、馬場財務委員長の3人立ち会いのうえ、ご本人の自宅において、支部ルーム資金の高額寄付を頂きました。先ずは今回20万円を、そして次回10万円、計30万円を寄付するというご本人の意向です。

吉村先輩は、大変お元気そうで、あと数カ月で満90歳になるそうです。支部創立以来、いつも北九州支部のためお骨折りをいただき、深く感謝申し上げます。有り難うございました。

支部長 伊藤久次郎

## ◆◆山行計画のご案内◆◆

### 1月の山行

#### 1. 霧氷の妙見岳・普賢岳(平成新山)

目 的：妙見岳と普賢岳の霧氷と平成新山パノラマコース登山

と き：平成26年 1月18日(土) 日帰り

集 合：6時30分鳥栖P A(前方ローソン付近) 行程：6時40分出発

長崎自動車道、諫早IC、諫早料金所(料金所出てすぐ左側再集合)

34号～57号(雲仙方面)～57号(小浜)

または128号(小浜町雲仙)

9時00分：仁田峠駐車場

仁田峠登山道出発～妙見岳～国見分かれ～鬼人谷口～西の風穴～北の風穴～鳩穴分かれ～立岩の峰～霧氷沢～普賢岳(途中昼食)～紅葉茶屋～仁田峠駐車場～雲仙小地獄温泉館入浴

申込み：榊 俊一 TEL 092-947-3208  
携帯 090-8416-6194

締切り：1月13日

### 2月の山行

#### 1. 伯耆大山・冬山基礎訓練

目 的：雪上訓練(アイゼン、ピッケルワーク)

と き：2月7日(金)～11日(火)

行 程：夜行バスにて往復

・2月7日 夜行バスにて小倉発

・8日 米子～大山寺～下山キャンプ場(テント設営) 雪上訓練

・9日 弥山登山・大山縦走

・10日 元谷にて雪上訓練、夜行バスにて米子発

・11日 早朝小倉着

申込み：板倉健一 TEL：090-7163-1610

締切り：1月15日

費用：20,000円

詳細は後日連絡します



### 3月の山行

#### 1. 黒田官兵衛ゆかりの山城

目的地：御所ヶ岳(246.9m) 神籠石(朝鮮式山城)  
馬ヶ岳(216m) 干支の山

と き：平成26年3月30日(日)

集 合：マイカー道の駅「香春」 8時30分

申込み：丹下 洽 TEL：093-391-8193

携帯：090-3732-8843

締切り：3月23日

### 4月の山行

#### 1. 英彦山清掃登山

と き：4月6日(日)

集 合：9時30分 別所駐車場

申込み：伊藤久次郎 TEL 0947-42-2772

締切り：4月1日

#### 2. 岩登り教室

と き：4月20日(日)

集 合：8時30分 平尾台 茶が床

場 所：平尾台 唐手岩

申込み：板倉健一 TEL 090-7163-1610

締切り：4月15日

#### 3. 冠山～寂地山カタクリ観賞

(昨年決定山行)

目 的：冠山(1339m)山口県の山

と き：4月29日(祝日)

行 程

小倉駅(6:30)～門司駅(6:45)～新下関駅(7:15)

発一下関IC～吉和IC～冠高原松ノ木峠

10:00 登山開始

冠山山頂～後冠山～寂地山頂～犬戻し林道下山

16:30予定

申込み：原 広美 TEL 090-6832-2128

TEL & Fax 083-245-5490

EM: hiromi-7h@kpe.biglobe.ne.jp

内藤正美 TEL 090-8993-0239

締切り 4月19日



## ◇4月 園川学校

と き: 4月12日(土)~13日(日)

集 合: 17時30分 ふれあいの家(北九州)血倉山

・4月12日(土)

18:50~21:00 机上講習(10分休憩)

・4月13日(日)

8:00~実技講習~15:00終了

費 用: 1,500円(宿泊代、食事代含)

申込み: 竹本正幸 TEL:0930-28-9611

締切り: 1月31日

## ＝山岳会員募集＝

1. 年会費: 3,000円(支部友会員)

入会費: 1,000円

2. 月例山行実施

3. 山岳講習会にも参加できます

連絡先: 山田武史 TEL 092-844-3563

## ◇編集後記

昨年は、最後の最後に雪の蛇越山(干支の山)に登ることができました。今年は蛇を越えて午年、良い年でありますように・・・

本年もよろしくお願いします。

## 小倉サロン

・場所: 小倉北区魚町「コール天」

・時間: 18時30分から

・参加申込み: 山田武史 (TEL092-844-3563)

◎1月22日(水) 越前岳ビデオ上映

18時から (2010年12月年次晩餐会プレ山行)

◎2月26日(水)

◎3月26日(水)

## 博多サロン

・場所: 博多区吉塚本町13-55

サンヒルズホテル内 居酒屋「呑多来」

・参加申込み: 榊 俊一 (TEL092-947-3208)

◎2月6日(木) 18時30分から

○原稿は事務局長山田武史又は竹本正幸へ。

・メールまたはFAXをお願いします。

・Eメール(写真を含む)は竹本宛て

・アドレス: takemoto.masayuki@white.plala.or.jp

(68号の原稿は3月20日までにお願いします。)

## 山やが集う よし 舌すし



## 「祝」福智山1000回登山

●小倉北区京町3丁目6-14

●TEL: 093-541-2623

●橋爪 久吉(会員番号 北九423)

●橋爪 明代(会員番号 北九442)

ご来店をお待ちしています

登山・アウトドアの専門店

## 好日山荘

SINCE 1924

里山ハイキングからアルプス、海外トレッキングまで、  
専門店ならではのアイテムが幅広く揃います。

## 好日山荘 アイム小倉店

〒802-0002 福岡県北九州市小倉北区京町3-1-1 GOLET/1'm 7F TEL:093-512-3455  
営業時間/10:00~20:00  
 初心者の方から登山ハイキングからスノーレッキング、雪山登山など、登山のことでしたら何でもご相談下さい。  
 お客様の登山の計画に合わせてアドバイスさせていただきます!ぜひご来店ください!



株式会社好日山荘ホームページ  
http://www.kojishanzou.jp/ 好日山荘 093-512-3455 福岡県北九州市小倉北区京町3-1-1 3F